

南信州広域連合第 11 回広域連合会議 結果報告

日時：平成 29 年 2 月 16 日(木) 15:06～16:11

場所：長野県飯田合同庁舎 3階講堂

1 開 会…15:06

【出席者】13 市町村長・泰阜副村長

〔下伊那地方事務所〕布山副所長・今井地域政策課長・細野地域政策課長補佐兼企画振興係長

〔飯田建設事務所〕西元所長

〔飯田保健福祉事務所〕小林副所長

〔飯田市〕高田産業経済部長

〔町村会〕牛久保事務局長

〔飯田広域消防〕三石消防次長兼飯田消防署長・有賀総務課長

〔飯田環境センター〕田見事務局長・北原事務局長補佐兼庶務係長兼新焼却施設整備担当専門主査

【事務局】渡邊事務局長・塚平事務局次長・北原事務局次長補佐兼庶務係長・秦野事務局次長補佐兼広域振興係長・下島介護保険係長・前沢庶務係主事

2 広域連合長挨拶

昨日の三遠南信サミットでは大変お世話になった。改めて御礼申し上げます。おかげさまで三遠南信の関係もさらに深まったのではないかという印象を受けた。三遠南信においても、広域的な課題解決のためにこれからも皆様方と共に頑張っていきたい。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

なお、副広域連合長及び副管理者は他の公務のため、本日欠席となっている。

3 協議・報告事項

(1) 産業振興と人材育成の拠点整備について

…資料 1 による説明（高田飯田市産業経済部長）

工事委託を受けている飯田市からの説明。

第 1 期工事の整備状況について、2/1 現在の様子を資料に添付した。電気科混合棟の工事が順調に進んでおり、昨日までで約 70%の進捗率。

第 2 期工事の概要について。今般、地方創生拠点整備交付金を 14 市町村の共同事業として申請させていただき、採択の内示があった。2/24 に正式に交付決定する旨の通知あり。事業内容については、体育館棟 1・2 階の改修（電波暗室の増築・ホールへの入口の増築・エレベーターの増築）。建築工事・電気設備工事及び機械設備工事を今後それぞれ発注するが、さらに EMC センターの増築部分の中身について、現産業センターにある EMC センターで使える部分の移設も含めての整備工事も加えて、大きくはこの 4 点の工事となる。事業費については、地方創生拠点整備交付金の申請をした 8 億円。2/3 に内示をいただいた「地方創生拠点整備交付金 4 億円」＋「交付金と同額の補正予算債」という財源で事業に取り組む。

第 2 期工事の今後の進め方について。前述の建築工事・電気設備工事及び機械設備工事について指名競争入札を行い、入札事業者を決定する。入札の方法については、「建築・電気設備及び管工事に入札参加資格登録がある、飯田市及び下伊那郡内に本店のある A 級業者」の数を各市町村毎に調査し、各工事毎に指名する業者を選定し、これから通知する。入札日は 3/9 を予定。また、EMC センター内部については、この建築・設備工事の進捗をみながら秋以降に実施予定。約 7,000 万円で整備工事を改めて発注する。

第 1 期・第 2 期についてはおよそ財源措置ができ、第 1 期工事については今年度未完了予定。第 2

期工事については3/9に入札し、今年度末に契約し、施工期間は約1年間。第3期工事については、広域連合の新年度予算として審議いただき、10月頃に発注し、施工期間は約1年間。最後の第4期工事(外構工事)については30年度に実施。こういったスケジュールで進めていく。

供用開始見込みについて。それぞれの工事を進め、信州大学の共同研究講座は本年4月からスタートする。公的試験場の部分は、第2期工事で体育館棟1階の整備が完了するので、その後現産業センターから試験機等に移して、30年度の早い段階で使える状況になる。30年度の秋頃にすべての工事が完了するため、産業センター全体の移転が完了するのは30年度末頃と想定される。

この拠点のオープンが視野に入ってきたが、これからどう活かしていくかという面について。道路関係の部分(リニア駅からのアクセス・座光寺SICからのアクセス・周辺道路の利便性の向上)はまだ手つかずの状態。よって道路アクセス等の課題が残っているため、改めて協議させていただく。

【質疑】(深津松川町長)

表題について。今までは「知の拠点」だったが、今後は「産業振興と人材育成の拠点」という形で統一されるのか。

【応答】(渡邊事務局長・牧野広域連合長)

公の施設の設置条例を広域連合として設置するが、今後はその名称を「産業振興と人材育成の拠点」という形で謳っていきたい。なお、愛称はまた別とする。

(2) 伊那谷自治体会議について

…資料2による説明(渡邊事務局長)

1/20会議当日に配布されたものを資料に添付した。会議では、飯田市からはリニア駅周辺を中心とした発言があり、伊那市・駒ヶ根市からはそれぞれリニアバレー・リニア駅を想定しながらどんな地域づくりを進めていきたいかという発言があった。当日の発言の要旨の概要としては、二次交通をどのように進めていくかということに集約していたと思われる。このことについては、伊那谷自治体会議と連携する形で、今後具体的に広域連合会議の場でも諮っていききたいと思っている。

ただ、「上伊那地域とどう結ぶか」という二次交通と「私共の地域」の二次交通とでは、若干意味合いが違うところがあるのではないかとと思われる。「私共の地域」の方は、具体的にどこで結んでいくかといったポイント感があるかと思っているが、そういったことも含めてこれから調整していく。

事業面では、やはり「観光」が大きく出ているため、このことについてもまた改めて協議させていただきたい。

【質疑なし】

(3) 体育協会からの要望及び屋内体育施設の視察について

…資料3による説明(渡邊事務局長)

飯田市体育協会及び下伊那郡体育協会の連名で、広域連合長及び広域連合会議議長宛に「県の屋内体育施設(誘致)建設に関する陳情書」が提出された。「飯田下伊那地域に県の屋内体育施設を整備する」ということを長野県知事に対して要請していただきたいとするもの。これに関連して両体育協会では、役員を中心に2/20に体育施設の研修視察を行う予定。これに関する議会側の取扱いについては、2/28議会の中でこの陳情を取り上げて審議される予定。広域連合側の取扱いについては、広域連合会議として知事に要望してまいりたい。当広域連合の基本構想・基本計画の中では「コンベンション施設・県の体育施設」の2つを掲げているため、基本構想・基本計画に則り、広域連合会議としてはその2つについて要望をあげていきたい。まずは、知事に対して「私共と一緒にこの件について検討してほしい」という形で要望してまいりたい。

併せて、懸案となっている阿南学園の整備に対する支援についても知事に要望してまいりたい。

もうひとつは、直接知事ということにはならないが県への要望ということで、現産業センターの後利用ということも含めて従来懸案となっている運転免許センターの設置について、併せて県警サイドに要望してまいりたい。

以上の内容を年度内に行ってまいりたい。現在具体的な日程調整を行っている。

【質疑なし】

(4) 平成28年度2次補正「クラウド型EHR高度化事業」について

…資料4による説明（塚平事務局次長）

国の2次補正予算において制定された10分の10の補助事業。クラウド型EHR高度化補助事業については、クラウドを活用して複数のシステムを双方向で情報連携することにより、地域で広域なデータ連携が実現されるようなシステムを作って実施している事業に対して補助をいただけるというもの。情報連携施設を拡大することで最終的に双方向の情報連携をする事業について、10分の10の補助をいただける。

これに基づき、今回考えているシステムが「ism-Link 高度化事業」である。現在はism-Link単体でそれぞれ構成する病院・診療所・ケアマネ及び地域薬局等を網羅するシステムとして活用しているが、今回飯田下伊那薬剤師会が調剤情報共有のシステムをクラウドにより構築することで患者の薬剤情報を一元管理し、さらにその情報をism-Linkと相互に情報交換することで共有するシステムの構築を目指すもの。将来的には「電子お薬手帳」という形での運用を視野に入れている。

システムの基本となる「調剤情報共有」というクラウドを構築することが第一目標のため、当企画提案書の提案者は飯田下伊那薬剤師会。南信州在宅医療・介護連携推進協議会も協力する中でこの企画を推進したい。事業費は8,000万円(10分の10補助事業)。

実施計画書について。今回この事業を行うにあたり、圏域内の薬局で調剤された薬情報が一覧表示され、それをism-Linkと相互乗り入れすることでそれぞれの病院・診療所へ活用できることになる。現状1人でいくつもの薬剤情報を持っている方がいる中、そういった方々の名寄せをすることで1人につき1つの薬剤情報となり、重複して薬の処方を受けること等を避けることができるのではないかと期待されている。こういったことを行うことで二次医療圏内すべての病院が地域連携システムに接続し、地域全体で在宅医療と介護の連携を進めていくポイントとして使っていくのではないかと考える。

実施体制説明書について。今回の高度化事業の申請にあたって、南信州在宅医療・介護連携推進協議会に協力をいただいている飯田医師会・飯田下伊那薬剤師会・飯田下伊那歯科医師会及びその他の協議会メンバーの団体すべてがこの事業に対して協力体制を組んであたるということで申請させていただいた。ただ、この事業については総額20億円で設定されており、全国で多くの応募があったと聞いている。この事業は3月に採択されることになっており、現時点では私共の提案が採択されるという確約を得ている訳ではないため、採択されるように活動を推進している。採択された折には皆様に報告し、具体的な提案をする中で進めてまいりたい。現時点ではism-Linkの小委員会等さまざまな団体に検討を始めている。

【質疑なし】

(5) 看護師等確保対策修学資金貸与事業の今後の進め方について

…資料5による説明（塚平事務局次長）

昨年11月広域連合会議・11/28全員協議会並びに1月広域連合会議を経て、現在条例制定に向けて事務を進めているが、詳細等さらに必要な検討を行い、本日示す制度概要をもって最終版とさせていただきたい。

これまで制度概要(案)として説明してきた部分の変更点について。

まず1点目は、これまでは「在学中の免許取得試験が不合格であったとしても、1年後の試験に合格し即時対象施設に就職した者までを対象とする」ものであったが、今回返還の猶予及び返還の免除の両項目に対して「弁済期の到来していない部分の全額」という規定を加えることにより、免許取得試験の不合格者は一律「不合格した時点の翌月から返還を開始していただくものの、改めて1年後の試験に合格し即時対象施設に就職した場合には、そこから先の部分について返還を猶予し、その後5年間従事すれば猶予されていた部分の返還を免除する」という内容を明示した。

2点目は保証人の人数について。これまでは「2名」としていたが、今回「1名(成人者)」とした。保証人を1名にすることでより借りやすくすることを考慮した。

当事業の制度周知等(案)について。高等学校を中心にそれぞれの学校宛に周知をお願いしてまいりたい。なお、高等学校及び圏域の看護学校等についてはできるだけ訪問して周知したい。周知時期は、2/28 定例会において条例案の議決をいただいた後、3月上旬にはPRを開始したい。募集の時期については、初年度ということで受付期間を若干延長して、5月下旬の貸与者選考から7月下旬の修学資金初回交付へと進めてまいりたい。

周知にあたり、構成市町村で発行している広報等に掲載していただき、PRへのご協力をお願い申し上げます。後日総務担当課長を集めた幹事会を開催し、詳細についてはその場でお願いしたい。多方面でポスター・チラシ等を活用して、広くPRしていきたい。

【質疑なし】

(6) 南信州地域の安心・安全の確保に関する協力協定の締結(案)について

…資料6による説明(塚平事務局次長)

地域の安心・安全に関わる協力体制について、広域的な協定締結に係る検討の提案をいただき、事務局で検討してきたものであり、その内容を環境・福祉・医療専門部会で再検討し、先月の部会で(案)としてまとめたもの。

協定の相手方は郵便局及び飯田信用金庫を想定。対象地域は飯田下伊那14市町村全域。相手方については、長野県が県下の新聞販売組合・中部電力・ガス協会・金融機関(八十二銀行・長野銀行)及び生命保険会社等の24事業者1団体と既に協定を締結していることが判明したため、広域連合としてのこの協定には含まれておらず、かつ圏域全体にネットワークのある郵便局及び飯田信用金庫の2者とした。

取組内容案については、郵便局と協議する中で他県で導入実績のある項目が挙げられ、①高齢者等をはじめとした地域見守り活動 ②道路損傷の情報提供 ③不法投棄の情報提供 の3項目。郵便局・飯田信用金庫の役割としては、業務中に異変等を発見した場合、必要に応じて所管の市町村窓口へ連絡し、このうち①については、緊急性がある場合は同時に警察署・消防署へ通報するよう努める。市町村の役割としては、前述の連絡を受けた場合、必要に応じて関係各所・機関等と連携して対応する。広域連合の役割としては、当協定の締結の他、この締結の状況について郡市民に周知する。協定の締結に向けて、今後各総務担当課長で構成する幹事会において、構成市町村の連絡窓口を報告していただく予定。

既に市町村の中には郵便局・飯田信用金庫と協定を締結した自治体もあるかと思うが、その場合はその部分を優先していただいて構わない。

協定締結予定日については、3/14の広域連合会議の冒頭で2者と協定を締結したい。

資料に協定書(案)を添付した。詳細について確認をお願いしたい。

【質疑なし】

(7) 28年度プロジェクトからつなげる29年度事業について

…資料7による説明(渡邊事務局長)

昨年11月の広域連合会議の中で行ったプレゼンテーションの内容に係る今後の方針について。対象事業ごとの取組概要は、当面「農業の再構築」を中心に「1村1企業ダーチャ」・「教育」・「一般研修」それぞれの取組を進めていきたい。

「1村1企業ダーチャ」について。(株)マーケティングフォースジャパン(MFJ)が7月上旬にロシアのダーチャの現地視察を予定されており、当広域連合としてもそのツアーに首長及び担当者が参画し、現場を確認していただきたい。その後、導入に際しての課題・マニュアル等を整備しながら具体的に事業展開していきたい。29年度については、まずは少なくとも1箇所あるいは1企業をモデルとして選定し、実施に向けた取組を進めていきたい。外部の企業を想定しているが、地域内の企業に対しても話をし、可能な企業については取り組んでいただくということも考えている。

「教育」について。セカンドスクール協議会を母体に具体的な検討を進めていきたい。まずは導入としてキャンプ等の比較的短期間の取組についてさらに精査して拡充していきたい。外部の子どもたちだけでなく、当地域の子どもたちに対しても体験の機会を普及していくことを考えていきたい。

「一般研修」について。昨年12月、MFJの経営委員会合宿(幹部研修)を当地域で行っていただいた。29年度もさらに当地域で回数を重ねて可能性・課題等を精査・分析していただけることになっている。それらをふまえながら、どんな展開をしていくかということを変更して検討していきたい。なお、南信州観光公社等での活動については継続して行っていただく。

「農業の再構築」について。資料7-2 P7参照。「今なぜ農業に取り組むのか」といったことを9項目で整理した。次に、①なにを作るか ②どの様に作るか ③どの様に売るか ④その仕組みをどの様に継続するか という4つの領域から取組を行い、最終的に「自信と誇りの持てる農業の再構築」に取り組んでいきたい。その結果、農業所得の増加が専業農家数の増加につながり、あるいは就農者数の増加が新規就農者等の増加にもつなげながら、持続可能な地域づくりを進めていきたい。資料7-2 P6は事業推進のプロトタイプ的な基本計画。10年ほどの長いスパンで取り組んでいきたい。当面はとっかかりとして、指定品目の野菜ではなく市場での付加価値や人気が高い特異なもの(導入としてイタリア野菜)に取り組んでいきたい。それをさらに広げていき、最終的には地場伝統野菜の拡大にもつなげていきたい。このようにいろいろな取組を絡めて、地方事務所等も含めて具体的に相談させていただきながら、地域全体での取組として広げていきたい。

推進体制については、今年度に引き続き市町村職員の参画を得ながら進めていきたい。今年参画した職員に継続して参画していただくことが一番だとは思いますが、今後の取組については実践的にフィールドに出ていくことから、関係するセクションに所属している職員が望ましいということもある。各市町村の事情を勘案いただく中で職員を推薦していただきたい。農業以外の分野も展開していきたいと考えているので、複数の職員の参画も歓迎する。具体的には明日の広域担当課長が集まる幹事会の席で説明させていただく。

なお、農業の関係については11月頃に具体的なイベントを開催したいと考えており、それに向けてどんな野菜を試験的に栽培していくか等を検討する中で、種の手配等を既に行った。

【質疑なし】

(8) 稲葉クリーンセンター電気事業について

…資料8による説明(田見飯田環境センター事務長)

電気事業者の選定をお願いしたい。

広域連合としては、電力の売電益を確保しつつ広域連合で運営するごみ処理施設で発電する電力を構成市町村の公共施設で利用することにより、環境施策の発信や公共施設の電気量の削減等のメリットがある。飯田環境センターの考え方としては、現在の状況を考慮すると荏原環境プラントの提案が最も有利であると判断しており、荏原環境プラントを電気事業者を選定し、年度末までに電力供給契約を締結したいと考えている。審議の程、よろしく願い申し上げる。

【質疑なし、提案採用】

(9) 飯田広域消防から

…資料9による説明(三石消防次長兼飯田消防署長)

1/28に行われた(株)セイコーアドバンス飯田支店第二工場の竣工式において、竣工記念として「煙体験ハウス」を寄贈していただいた。申出者以下については資料参照。今回いただいた煙体験ハウスについては、各地区の自主防災会等が行う訓練で有効に活用してまいりたい。同社からは、幾多にわたり寄贈いただいていることを申し添えさせていただく。

【質疑】(熊谷高森町長)

広域消防はこういったハウスをいくつ所有しているか。

【応答】(三石消防次長兼飯田消防署長)

現在3基所有している。以前は南信州防火管理者協議会から寄贈いただいた。

(10) 南信州阿南町新野雪祭等資産化事業報告会・シボジウム「民俗芸能の資産化と継承を考える」について

…資料10による説明(秦野事務局次長補佐兼広域振興係長)

平成27年度より文化庁の支援を受けて実施してきた当事業の報告会を3/4(土)・5(日)に実施予定。当事業の実行委員長は阿南町長。当事業については、地域の皆様方や観覧者の協力を得て、雪祭りにおいて2年間フラッシュ撮影を一切禁止させていただき、昔からの雰囲気を映像として記録することができた。シンポジウムでは、リニア時代に向けて当地域の個性・誇りとして、「地域にとっての民俗芸能とは何か」を中心に議論を深める予定。詳細についてはチラシ参照。

【補足】(牧野広域連合長)

昨日の三遠南信サミットの懇親会においても、阿南高校の皆様方に伝統芸能を紹介していただき、大変好評であった。

(11) 「南信州いいむす 21」登録判定について

…資料 11 による説明 (秦野事務局次長補佐兼広域振興係長)

審査の結果「適合」と認められた3件の登録をお認めいただきたい。区分については更新登録及びステップアップで中級3件。

【質疑なし、承認】

(12) 後援依頼について

…資料 12 による説明 (北原事務局次長補佐兼庶務係長)

①「第4回うるぎ星の森音楽祭」(うるぎ星の森音楽祭実行委員長)の後援依頼。こちらについては2/8までに返答を求められたため、2/7正副連合長部会長会議においてお諮りして承認となり、後援承諾させていただいた。報告とさせていただく。

②「いいだ人形劇フェスタ 2017」(いいだ人形劇フェスタ実行委員会)の後援依頼。詳細及び開催要項の概要版については資料参照。当事業については平成28年度も後援承諾している。

以上、後援の協議をお願いしたい。

【質疑なし、後援承諾】

4 長野県

●下伊那地方事務所

…口頭による説明 (布山副所長)

2/13に銀座NAGANOにおいて「南信州移住セミナー」を広域連合と共催で開催させていただいた。当日は南信州の魅力の紹介や子育て世代の方々の体験発表等を行い、個別相談会には16組18人にお越しいただいた。皆様方のご協力に対して深く御礼申し上げます。また今後も事業を進めていきたいという計画もあるため、引き続きご協力願いたい。

【質疑なし】

●飯田建設事務所…なし

●飯田保健福祉事務所…なし

5 今後の日程

2月28日(火) 南信州広域連合議会 第1回定例会

3月14日(火) 広域連合会議等

6 その他

【熊谷高森町長】

協議・報告事項(3)に関連して1点。新聞報道では「2027年の国体を長野県に招致するのではないか」

といった記事が載っていた。現状だと長野県招致が実現しても、飯田下伊那では競技場が整備されていないため、たくさんの競技を受けることが難しいかもしれない。体協の立場からぜひ、バレーボール・バスケットボール・卓球等が開催できるような県民的体育施設(アリーナ)を整備していただくよう広域連合として県への要望をお願いしたい。同時に、長野県招致が決まればどの地域でこういった競技をするかといった招致合戦になると思うが、2027年というと順調にいけばリニア中央新幹線開業となるため、飯田の地で開会式を行ってほしいという要望をぜひ連合長の立場からも発言していただきたい。

【牧野広域連合長】

それは体協の立場ということか。

【熊谷高森町長】

体協の立場でもあるし、広域連合としてこの地で開会式をぜひ実現してほしいということを今の段階から連合長としてぜひ発言してほしい。

【牧野広域連合長】

開会式の話は私も初めて聞いたので、今の話は新しい提案として聞いてよろしいか。

【熊谷高森町長】

そのくらいの勢いでやってほしい。

【牧野広域連合長】

町長のおっしゃる意気込みは承知した。国体が決まるかということはまだこれからで正式に決まっているわけではないため、決まったところでそういった話になったときに「リニアが開通するこの地で開会式を行えたらよいのでは」という話をしていくということで今後検討したい。

【勝野阿南町長】

2027年の国体を行う場所は、長野県で決定したわけではないと。

【熊谷高森町長】

おそらく長野県に決まるのではないかと。ある程度順番があるので、受けざるを得ないと思う。

【牧野広域連合長】

順番でいくと、ブロックの中で次に挙がってくるのは長野県という感じではないかと私も思う。

【市瀬喬木村長】

戸籍や印鑑等の諸証明について、コンビニ交付を検討する段階に来ているということのようである。長野県内でコンビニ交付を行っていないのは飯田下伊那と木曾だけになってしまった。しかし、インシャルコストだけで各市町村の負担が数千万円になってしまう。そこで、広域連合として取り組むことで1団体当たりの負担金を安くすることや、特別交付税の措置が平成31年で切れてしまうということを考慮して、担当課長の会議を定期的開催してこれからの方策について検討することになっている。この制度の仕組みについて、各理事者の考えを聞いてしっかりしたものをつくるようお願いしてあるので、それぞれの担当から理事者に照会があった際にはぜひ検討していただきたい。とても大きなお金になるので、個々で検討するのではなく広域連合の総務部会等で検討する時期に来ていると思う。ぜひ皆様で考えていただければありがたいと思う。

【牧野広域連合長】

この話は前々から事務レベルで出ていた話。それでは総務部会にその情報をあげてもらって検討していくという形はどうか。

【深津松川町長】

一番のネックはお金がたくさんかかること。税のコンビニ収納ができていろんなデータを調べると、払わない人はコンビニであろうが払わないといったデータが出てくる。ただ、時代の流れの中でコンビニ収納は当然進めていかなくてはならないと思う。

【市瀬喬木村長】

収納の方はどのみちやらなくてはならないと思う。戸籍や印鑑等の諸証明について、今はマイナンバーカードを持っている人がカードを入れても飯田下伊那地域の戸籍が取得できない状況。他の地域はもうコンビニ交付できるように仕組みができています。全国の皆様が取得できない環境にあるのが長野県内ではどうとう飯田下伊那地域と木曾地域だけになってきてしまった。

【牧野広域連合長】

その話はここの中だけでというより、まずは部会で検討してもらったほうがいいという感じがする。

【市瀬喬木村長】

1 通当たり 10 万円もかける証明を出していいのかということもあるので。

【牧野広域連合長】

結局ネックとなるのはそこで、確かに便利なのはいいがそれだけコストもかかってくるという話がいつもぐるぐる回っているような感じがある。ただ、なかなか事務方では判断し辛いという部分のあるかと思うので、部会で検討してもらう方がいいと私は思う。そのあたり、事務局に段取りをお願いしたい。

7 閉 会…16:11